

令和5年度第1回若葉区支えあいのまち推進協議会

議事要旨

- 1 日 時 令和5年7月14日（金）14時00分～15時30分
- 2 場 所 若葉保健福祉センター3階 大会議室
- 3 出席者 委員 26名（うち代理出席 1名）（欠席委員数 5名）
傍聴人 0名事務局 11名

4 議 題

- (1) 新役員の選出及び今年度の協議会の運営、開催予定について
- (2) 令和4年度を取組状況の調査について
- (3) 第5期若葉区支えあいのまち推進計画の中間見直しについて
- (4) その他意見交換

5 議事経過

- ・委員定数31名のうち5名の欠席を確認して開会した。
- ・若葉保健福祉センター風戸所長挨拶の後、事務局職員の紹介を行った。事務局より会議の公開について説明があり、あわせて会議録や広報誌作成のため写真撮影、録音を行うことについて了承を得た。

議題（1）新役員の選出及び今年度の協議会の運営、開催予定について

駒野委員長より、藤川委員の退任にともなう新役員（副委員長）の選出についての説明があり、互選により日野委員が選出された。あわせて運営企画委員にも選任された。

○日野委員

ご指名にあずかりましたので、微力ではございますが頑張らせていただきたい。

若葉区高齢障害支援課海老原主査より今年度の協議会の運営、開催予定についての説明を行った。その後、質疑応答に移るも、発言はなかった。

議題（2）令和4年度を取組状況の調査について

若葉区高齢障害支援課海老原主査より令和4年度を取組状況の調査についての説明を行い、続いて社協若葉区事務所 吉田所長から調査方法についての説明を行った。その後、質疑応答に移るも、発言はなかった。

○吉田所長

令和5年度を取組状況調査については、調査時期の関係により、社協のほうで予め取組

状況の記載をさせていただいたのち、各地区部会に内容の追記修正の依頼をしていく予定である。資料2-3については表の右にある取組の方向性及び令和4年度取組状況の加筆修正をいただきたい。

議題（3）第5期若葉区支え合いのまち推進計画の中間見直しについて

若葉区高齢障害支援課海老原主査より第5期若葉区支え合いのまち推進計画の中間見直しについての説明を行った。続いて社協若葉区事務所 吉田所長が資料3-3についての説明を行った。

その後、質疑応答及び意見交換を行った。

○吉田所長

資料3-3についてご説明申し上げます。社協の中で検討したものを提示させていただくものである。どのように計画に取り組むか、進行管理ができる書式となっている。地区部会エリア別に作成しており、ヒアリングにて内容を協議していきたいと考えている。

重点取組項目については、状況に応じて計画を随時修正していきながら進めたいと考えている。重点取組項目以外に活動しているものについても追記している。令和5年度の年間計画作成についても委員の承認をいただき、事務局のほうで進めていく。

○山内委員

各地区部会から出された第5期計画について、丸印の数が地区部会によって異なるわけであるが、事務局が内容をまとめた段階で、各地区部会の活動内容への捉え方や温度差をどのように考えたのか伺いたい。また自治会会議の活動についても連携が必要と考えるのがかか。

○吉田所長

各地区部会の取組状況への温度差については、昨年2月から各地区部会を回ってヒアリングをしてきた。これまでは書面でのやり取りであったが、地区部会の中で役員のみで周知になってしまうなどの意見があったことから、ヒアリングを行ったものである。各項目について説明をし、各地区部会で選択していただいた中で、委員会ごとに取組項目を定めたような地区もあれば、重点的にやりたい項目を選んだ地区もある。取り組む内容の濃さについて事務局で協力してすすめていきたいと考えている。

前田委員からも以前話があったものだが、地区部会だけでなく自治会でも色々な取組みをしている地区がある。計画を立てるにあたり、丸印をつけていないものについて重点取組項目以外に地区で実施しているものをヒアリングにて詳しく確認した上で、項目に当てはまるものは反映させている。

○津田委員

資料2-1にある、これからの第5期計画の取り組みについて、地域活動の担い手を発掘する項目について3か所の地区部会が手を挙げている。長期的な組織運営を考えると、担い手の発掘はきわめて重要であることから、そこに注目する地区部会の数が少ないことが気になる。各地区部会で抱える問題であると思う。

オンラインの活用に関する項目について挙げた地区部会がなかったことについて、オンラインの活用支援を受けて挙げられた項目であるにもかかわらず反応が得られないというところが気がかりである。国がデジタル化に力を入れている状況に対して、地域が実際に動いていないことについていかなものかと思う。事務局からも、ホームページがある、オンライン会議をやっているなどの試みがある地区部会・自治会などについて情報を収集し、こういった会議で紹介するなどの周知及び啓発をはかる必要があるのではないかと考える。それにより、各委員はその情報を自分の地区部会等で共有することができ、発展につながるのではないかと考える。

○吉田所長

ご指摘について謹聴する。オンラインの活用や災害についての項目が少ないものについて、事務局側も問題視している。オンラインについては、事務局側もどのように推進していったらいいのか提案内容に悩んでいるものがある。現在、オンラインのひとつであるLINE講座について社協、あんしん等で開催している経緯があり、各活動内容を情報収集し各地区部会等に周知啓発することを検討している。また社協のHPを立ち上げ、今後の活用について動いているところである。その際、東京情報大学の先生にご教示いただいたものもあり、今後も先生や学生さんのご協力を得ながら進めたいと考えている。

災害については、計画に基づいた活動についてヒアリングにて確認し、記載に反映させていきたいと考えている。

担い手については千葉市全体のテーマであると考えている。手法については事務局側も検討しているところであり、これからも考えてまいりたい。

○山内委員

第5期計画は今後内容を検討していくものであるが、地区部会代表の委員が集まっている中で、若葉区全体として地区部会活動をどのようにすすめていったらよろしいか検討したい。自治会には若い人が入らず、地区部会においても後継者づくりが大きな課題である。こういった重要かつ共有すべき案件について、集まって意見交換できる機会があるとよいのではないかと考える。

○駒野委員長

次の議題において検討させていただく。

○駒野委員長

この議題における事務局側の提案について承認してよろしいか。(反対意見なし)

議題(4) その他意見交換

○山内委員

若葉区支え合いのまち推進計画における区の課題について「活動の一体化」というものがあるが、なかなか関係者や住民と一体化した活動が進みにくいと感じている。地区部会によって活動内容が違うことはあるが、若葉区全体で重要なことについて一体感をもってすすめられることを考えるのが必要ではないか。

地域の横断的なつながりによる活動の一体化をはかることについて、民生委員やあんしんケアセンター等との連携が必要と掲げられている。第5期計画もこれまでのやり方を踏襲し、各地区部会がそれぞれの重点活動項目を選択しているわけであるが、民生委員やあんしんケアセンターなどとの連携というスタンスが少ないのではないかと感じる。

また地区部会活動に関する住民の理解について「地区部会って何ですか」という声をよく聞く。住民に対して何をしてくれるのかなど周知が進まず、行事を実施しても集まりがよくない。地区部会活動は主体が住民であり、住民と向き合って住民のニーズにこたえる必要がある。地区部会に一番求められるコミュニティ活動、つながりができていないと思う。コロナ禍のこともあり人とのつながりが希薄になっている。近所の支え合いもない現状である。住民同士が支え合いの思いを共有する必要がある。地区部会役員だけがやる問題ではなく、住民自身が考えなければならないということについてアナウンスも十分ではない。意見交換を行う場を設けてほしいと思う。

○駒野委員長

山内委員から提案のあったことについて検討していただきたい。

○風戸所長

山内委員からご発言のあったことはもっともである。去年は協議会が書面開催だったこともあり、実情と乖離した部分があるのではないか。あまり時間は無いが今後具体的な計画を作成するにあたり、内容を盛り込めればと思っている。この協議会は若葉区全体の地区部会の皆様も委員となっており、ぜひ本会議でご意見をいただきたい。

○山本委員

シルバー人材センターなどと連携するにあたり、様々なスキルをもつ方が登録していると感じる。また活動したい意欲がある人の情報もある。そういった方々と連携をして、スキルを活かしていただき、地域の活性化につながっていくことができるのではないか。

○山内委員

若葉区の課題への対応は地区部会が考えても解決するものではない。みんなが力を合わせる考え方、住民とともに考える場の提供ということを考えると、広報活動が大切ではないかと考える。

○駒野委員長

大きな課題でもあり、今後計画を進めていく中で検討することとしたい。

○津田委員

地域福祉は、なるべく多くの方に必要性を認識してもらうことが極めて大切である。地域の人に情報を発信し続けることが、大変ではあるが必要である。これからの取り組みの中で「地域福祉に関する情報の発信」を重点取組項目にした地区部会が7団体ある。それだけでなく全部の地区部会が発信していけるとよいと考える。自分のところでは、いわゆる広報誌というものが配られていないが、地域の人たちが地域福祉の理解を深めていくことはとても大切であり、今後進めていくべき部分と思う。

○事務局（海老原主査）

広報誌について、コロナ禍によって推進協だよりの発行を3年前に停止している現状がある。今後、推進協だよりの発行を再開し自治会、地域に配布する中で情報発信の推進をはかりたいと考えている。

○藤本委員

5年ほど前に転入してきた。江戸川区はいろいろな祭りをやっていて、地域の祭り、全体での祭りなど様々ある。そこに人々が集まり、自然と交流が発生する。若葉区に来ると、コロナのこともあり、あまり祭りや集まりを見かけることがなかった。これから、そういった集まりを進める中で、人が集まって生まれる力を大切にしていけたらよいのではないかと感じる。広報などを配ってもあまり読んでいただけなかったり、オンラインについてもできない人は蚊帳の外になってしまう。人を集めることで生まれる力のほうが盛り上がりを得られるのではないかと思う。

○田中委員

1年ほど前にHPを立ち上げ、現在開設中である。およそ100～200人/月くらいの方がアクセスしてくれている。自分たちで作ったものなので派手ではないが、自治会の活動を上げたり、地域の主要施設について周知するなどの内容になっている。紙ベースで回すだけでなく、携帯などでアクセスできることで若い人にも見てもらい、興味を持ってもらうな

ど関係性の構築を目的にしている。人件費は（自分たちでやっているの）かからず、サーバー代は年に2万円ほどである。とはいえ、実際にホームページの作業ができる人とできない人は大幅に分かれるので、興味がある人をお願いしている状況である。自治会のほうでも、自分たちが新しく立ち上げるのではなく、地区部会のHPの一部に記載している例がある。あんしんケアセンターに関する内容の紹介もしている。どんどんアクセスしていただくには、内容量や情報の更新を行う必要があり、それが一番の課題である。見栄えの良さなども大切だと感じている。

○山内委員

都賀の台に居住しているが、その6地区のHP立ち上げを検討したことがあった。しかしお話にあったとおり、内容を更新し続けることなどに課題があり断念した経緯がある。

大きな行事をやると人が集まってくれるが、コロナ禍で集まれなくなったとき、あんしんケアセンター等と連携して都賀地区8000世帯に対して回覧するチラシを出すようにした。地区部会がどのようなことをやっているのか、ひとりでも多くの方に理解を得ることが大切だと考える。

○澤口委員

防災、減災について啓発する活動をしている。昨今、災害級の大雨などのニュースも目にする。資料を配布したのでご覧いただきたい。活動状況は広報誌も付け加えている。地域において防災・減災に関する話を希望される方がいたらお声掛けいただきたい。

○平賀委員

植草学園で地域連携を担当している。今回、広報というキーワードが出てきたが、「知ってもらおう」ことの大切さ、難しさを日々感じている。知ってもらうためにどうしたらいいのかということで今回資料をお持ちしている。共生社会をひとつのキーワードとし、インクルーシブという活動をしている。どんな人でも触れ合って理解し合える社会を作っていくことが本学の理念であり、地域のお子さんたちを巻き込む活動、障害をもっている人を支える活動、障害をもっているお子さんを育てている方を支える活動などを実施している。また千葉市と協定を結び、災害発生時は本学の駐車場の一部を提供するなどの取り決めもあり、こういったことをどのように伝えていくかというのは非常に大きな課題である。少しでも伝わるよう地道な活動に努めている。大学の務めとして地域に貢献してまいりたい。

その他の連絡等

○事務局

今年度の推進協議会については、10月頃と2月頃を検討している。第2回若葉区支え合いのまち推進協議会の会議日程等が決まり次第、委員の皆様へ早めにご連絡させ

ていただきたいと考えている。

駒野委員長が閉会挨拶をして終了とした。